



平成 30 年度
地域コーディネーター養成講座
ぎのわん地域づくり塾 2018

報告書

平成 31 年 3 月

目次

第1章 ぎのわん地域づくり塾概要	1
(1) ぎのわん地域づくり塾とは	
(2) プログラムの流れ (全7回+スキルアップ講座)	
(3) 第3期塾生の概要	
<塾生の声>	
(4) モデル地区：上大謝名の現況	
<主催者からみた地域づくり塾>	
塾長 松川正則 (宜野湾市 市長)	
多和田眞光 (宜野湾市社会福祉協議会 会長)	
第2章 ぎのわん地域づくり塾の講座内容	9
(1) 第1回 <公開講座> 地域コミュニティーを運営する	
(2) 第2回 地域づくり実践の現場から学ぶ <モデル地区上大謝名>の地域課題と実践を知る	
(3) 第3回 上大謝名の地域課題の「現象」と「原因」を考える	
(4) スキルアップ講座 「企画」の立て方とファシリテーション	
(5) 第4回 地域課題を調べる ～フィールドワークの作戦会議～	
(6) 第5回 フィールドワーク ～地域インタビュー・まちあるき実践～	
(7) 第6回 地域の課題解決の企画づくり ～5チームの中間発表～	
(8) 第7回 上大謝名に向けた最終発表・修了式	
<企画発表に対する上大謝名住民のコメント>	
<アドバイザーからみた地域づくり塾>	
櫻井常矢 教授 (高崎経済大学 地域政策学部)	
第3章 上大謝名の困りごとに応じた企画提案	19
(1) 地域の宝を喜爆剤に！ (チーム名：A・F チャンプルー)	
(2) 上大謝名と大謝名 合同円卓会議 ～子どもの居場所づくりを中心に～ (チーム名：くがにーず)	
(3) 異世代マッチング (チーム名：アンダーみさご)	
(4) 広報委員会をつくろう！！ (チーム名：Discover)	
(5) 子どもが消えた！！全員集合！公民館へ！ (チーム名：UP 大謝名チーム)	

<モデル地区の自治会長からみた地域づくり塾>

大城ちえ子 会長（上大謝名自治会）

<講師からみた地域づくり塾>

宮道喜一 氏（まちなか研究所わくわく 事務局長）

第4章 塾生アンケートまとめ 31

(1) アンケート概要

(2) 各設問項目の結果

第5章 総括 ～第3期の評価と今後に向けて～ 39

(1) ふりかえりミーティング開催概要とまとめ

(2) 塾生アンケートに記載にされていた要望一覧

(3) 次年度に向けての塾プログラム改善ポイントの提案

資料編

資料1 りのわん地域づくり塾 2018 公開講座・募集要項チラシ

資料2 平成30年度りのわん地域づくり塾申込書

資料3 2018 カリキュラム（りのわん地域づくり塾）

資料4 櫻井常矢氏（高崎経済大学教授）の講座資料（第1回講座）

資料5 「企画」の立て方とファシリテーション（スキルアップ講座資料）

資料6 塾生各チームの企画提案書

資料7 ニュースレター<vol.1～8>

資料8 塾生アンケート結果

資料9 市報りのわん平成30年6月号

資料10 最終発表案内チラシ

資料11 市報りのわん平成31年2月号

資料12 配布資料

第1章

ぎのわん地域づくり塾 概要

第1章 ぎのわん地域づくり塾概要

(1) ぎのわん地域づくり塾とは

これからの宜野湾市においては、様々な分野で「一つの組織、団体では対応できない、複雑化した課題」が増えてくると考えられる。そのため、地域住民と共に地域課題を共有し、互いに得意とすることを持ち寄り、一緒に取り組むことで、複雑化した地域課題を解決する「協働による地域づくり」が求められている。

「協働による地域づくり」をすすめるためには、地域づくりに必要な地域資源を知り、多様な人や力、資源をつなぎ合わせて、「ひとりの困りごと」を「地域の困りごと」として、解決の動きをつくり出す地域コーディネーター（つなぎ役）の存在が重要となる。そのため、宜野湾市では、地域づくり活動を行い、支援するための理解や知識を持った、コーディネーターの力を磨き合う場として「地域コーディネーター養成講座 ぎのわん地域づくり塾」（以下、「ぎのわん地域づくり塾」）を、平成28年度より行っており、今年度第3期を開催した。

【ぎのわん地域づくり塾の目的】

地域づくりのプロセスを大切にし、多様な資源をつなぎ合わせながら、地域課題の解決の動きをつくり出す「地域コーディネーター」を育成すること。

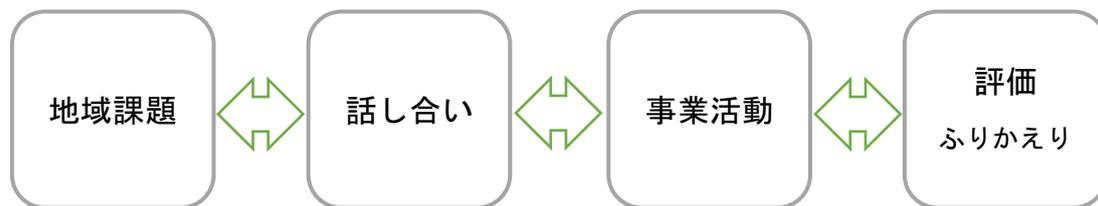


図 地域コーディネーターが住民と行う、地域づくりのプロセス

ぎのわん地域づくり塾では、講義、フィールドワーク、ゼミを通じて、モデル地区（宜野湾市上大謝名）の地域課題をとらえ、解決のための企画提案を行う過程から、地域コーディネーターの育成を行った。



図 地域コーディネーター育成プロセス

(2) プログラムの流れ（全7回＋スキルアップ講座）

ぎのわん地域づくり塾 2018 は平成 30 年 7 月 2 日の公開講座から始まり、10 月 21 日の修了式までの約 4 ヶ月間に渡って開催した。そして、今年度はステップアップ講座として、地域資源や経営の視点を、より取り入れた講座内容とした。講座会場は上大謝名公民館を拠点として開催し、公開講座と中間発表は男女共同参画支援センターふくふくで行った。第 2 回から第 7 回までの講座には、平均して約 28 名が継続的に受講した。

表 めのわん地域づくり塾 2018 のプログラム概要

講座	日程	講座名	会場	出席者
第 1 回	7/2 (月) 18:00-21:00	公開講座 地域コミュニティを経営する 講師：櫻井 常矢 氏 (高崎経済大学 教授) ゲスト：南 信乃介 氏 (1 万人井戸端会議 代表理事)	男女共同参画支援 センターふくふく	69 名
第 2 回	7/27 (金) 19:00-21:30	地域づくり実践の現場から学ぶ ＜モデル地区上大謝名＞の地域課題と実践を知る 情報提供 大城 ちえ子 氏 (上大謝名自治会長) 金城 トヨ子 氏 (かつら食品代表) 垣花 辰勇 氏 (元上大謝名公民館建設実行委員長)	上大謝名公民館	36 名
第 3 回	8/10 (金) 19:00-21:30	上大謝名の地域課題の 「現象」と「原因」を考える 情報提供 平仲 稚菜 氏 ((株) がちゆん)	上大謝名公民館	36 名
スキルア ップ講座	8/19 (日) 9:00-15:30	「企画」の立て方とファシリテーション 講師：宮道 喜一 氏 (まちなか研究所わくわく 事務局長)	宜野湾市社会 福祉センター	25 名 一般 10 名
第 4 回	9/6 (木) 19:00-21:30	地域課題を調べる ～フィールドワークの作戦会議～ 情報提供 赤嶺 舞 氏 (宜野湾市社会福祉協議会) 山内 一郎 氏 ((株) FM めのわん) 百次 由美子 氏、仲尾次 清美 氏 (地域包括支援センターふれあい)	上大謝名公民館	28 名
第 5 回	9/17 (月・祝) 13:00-17:00	フィールドワーク ～地域インタビュー・まちあるき実践～ 講師：櫻井 常矢 氏 (高崎経済大学 教授)	上大謝名公民館	22 名 上大謝名住民 6 名
第 6 回	10/6 (土) 9:00-15:30	地域の課題解決の企画づくり ～5 チームの中間発表～	男女共同参画支援 センターふくふく	22 名
第 7 回	10/21 (日) 9:00-16:00	上大謝名に向けた最終発表 ～修了式～	上大謝名公民館	29 名 一般 9 名

(3) 第3期塾生の概要

1) 塾生の所属

第3期塾生として、企画立案チームに所属した塾生は51名（女性：34名、男性：17名）であった。その内、修了した塾生（修了要件：全8回中4回以上の出席）は32名（女性：22名、男性：10名）であった。塾生の所属として最も多かったのは上大謝名自治会の方であり、社会福祉協議会、介護職、地域包括支援センター、NPO法人等の多様な立場からの参加を得た。また、年代は10代から70代までの方が受講し、30、70代が6名で最も多く、10代の1名が最小であった。

表 第3期塾生の所属（修了者）

所属	人数(名)	割合(%)
上大謝名自治会	12	38
社会福祉協議会	4	13
介護職	3	9
地域包括支援センター	2	6
NPO法人	2	6
行政職員	2	6
学生	1	3
大学教員	1	3
民生委員児童委員	1	3
大謝名区自治会	1	3
その他	3	9
合計	32	100

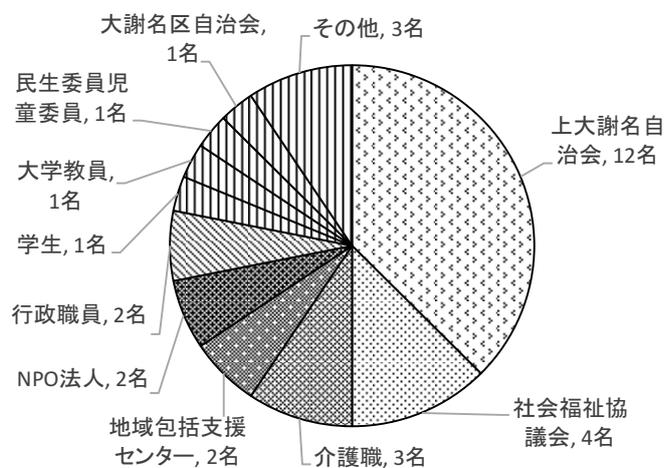


図 第3期塾生の所属（修了者）

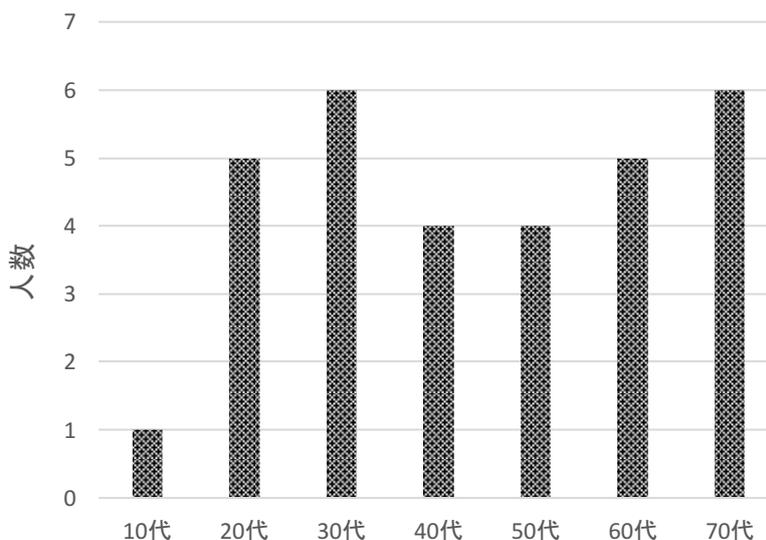


図 第3期塾生の年代分布（修了生）

＜塾生の声＞

塾生の皆さんには、本塾の修了式後にアンケートをご記入いただいた。その中から本塾での学びや得られたことを一部以下に記載した（原文のまま記載）。

翁長笑花さん（20代）宜野湾市社会福祉協議会

第3期は、地域に住んでいる方の参加も多く、よりリアルな地域課題や上大謝名の素晴らしさを直接聞くことができたので、最終発表に向けた企画提案をする際に、とても充実した議論ができたと思います。また、普段関わりのない人たちと出会い、それぞれの立場からの意見がきけることも、この塾の魅力だと思います。この繋がりを今後も良い形で残していきたいです。

児玉光也さん（40代）琉球大学

地域課題に取り組むにあたり、外部者の心がけを気付かせてくれ、地域の方々と共に問題を認識し、ワークする手法を体験しながら学ぶことで、身の丈にあった解決方法を導くことを経験できました。毎回、「ふりかえり」をくどいぐらいにやることの重要性を学びました。

眞壁由香さん（50代）沖縄 NGO センター

年代や仕事の差を超えて、様々なアイデアが出て、みんなで話し合っって意見をまとめていく作業は楽しかったです、いい経験になりました。また、実際に地域を歩いたり、地域の方にインタビューすることから考える部分が多かったので、フィールドワークの大切さを学びました。

平良忍さん（60代）上大謝名自治会

従来のやり方で行ってもうまくいかない時には、まるっきり反対の事を検討する事も必要かと思いました。近視眼的でなく、大きく俯瞰的な眼でみていきたいです。

波平道子さん（60代）上大謝名自治会

自分達の活動を進めていく中、横との連携を大切にすることに気付きました。また、一団団で活動してきたので、多くの地域活動に目配りできたらと思います。

(4) モデル地区：上大謝名の現況

宜野湾市上大謝名は、普天間基地の南西に位置し、人口は1,594人（平成30年）の地区です。昭和54年に大謝名区から発展分離して上大謝名自治会は設立された。居住者の出身地の多くは沖縄本島内の各地や離島、本土と多様であるため、上大謝名自治会は、常に住民間のコミュニケーションを図る事を第一とし、さまざまな活動を展開している。

上大謝名地域773世帯の内、自治会の加入世帯数は、399世帯（加入率51.61%）（平成30年）となっている。



図 宜野湾市における上大謝名の位置

表 上大謝名と宜野湾市の人口推移

	平成8年 1996年	平成17年 2005年	平成26年 2014年	平成28年 2016年	平成30年 2018年	
上大謝名	人口	1,622名	1,649名	1,626名	1,571名	1,594名
	世帯数	548世帯	676世帯	741世帯	726世帯	770世帯
	65歳以上人口 (高齢化率)	-	-	416名 (26%)	429名 (27%)	439名 (28%)
宜野湾市	人口	82,698名	89,189名	95,396名	96,886名	98,435名
	世帯数	29,149世帯	35,617世帯	40,659世帯	42,104世帯	43,834世帯
	65歳以上人口 (高齢化率)	-	-	15,215名 (16%)	16,697名 (17%)	18,004名 (18%)

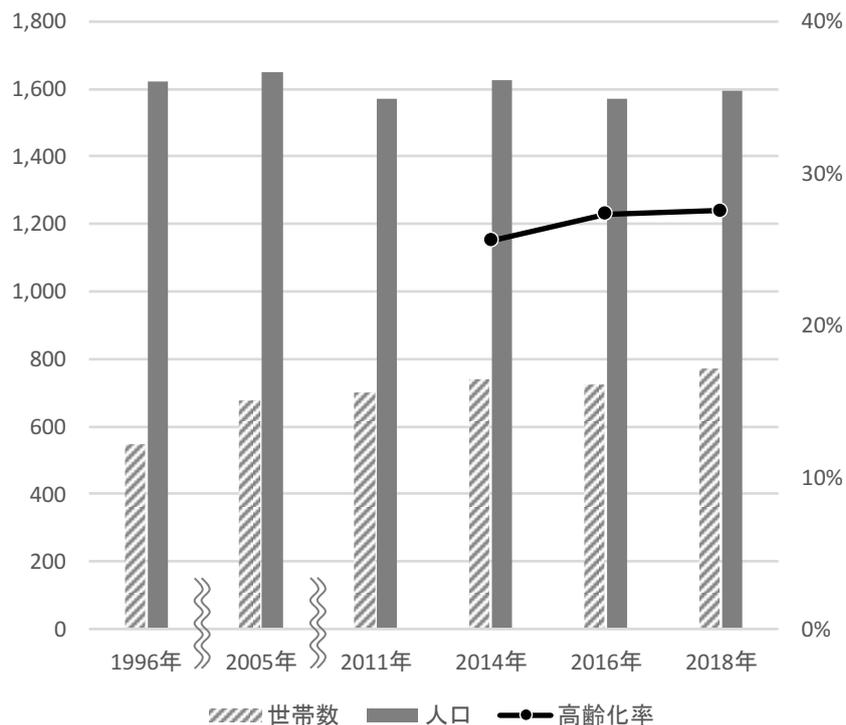


図 上大謝名の人口、世帯数、高齢化率推移

【大城自治会長がみる上大謝名の困りごと】

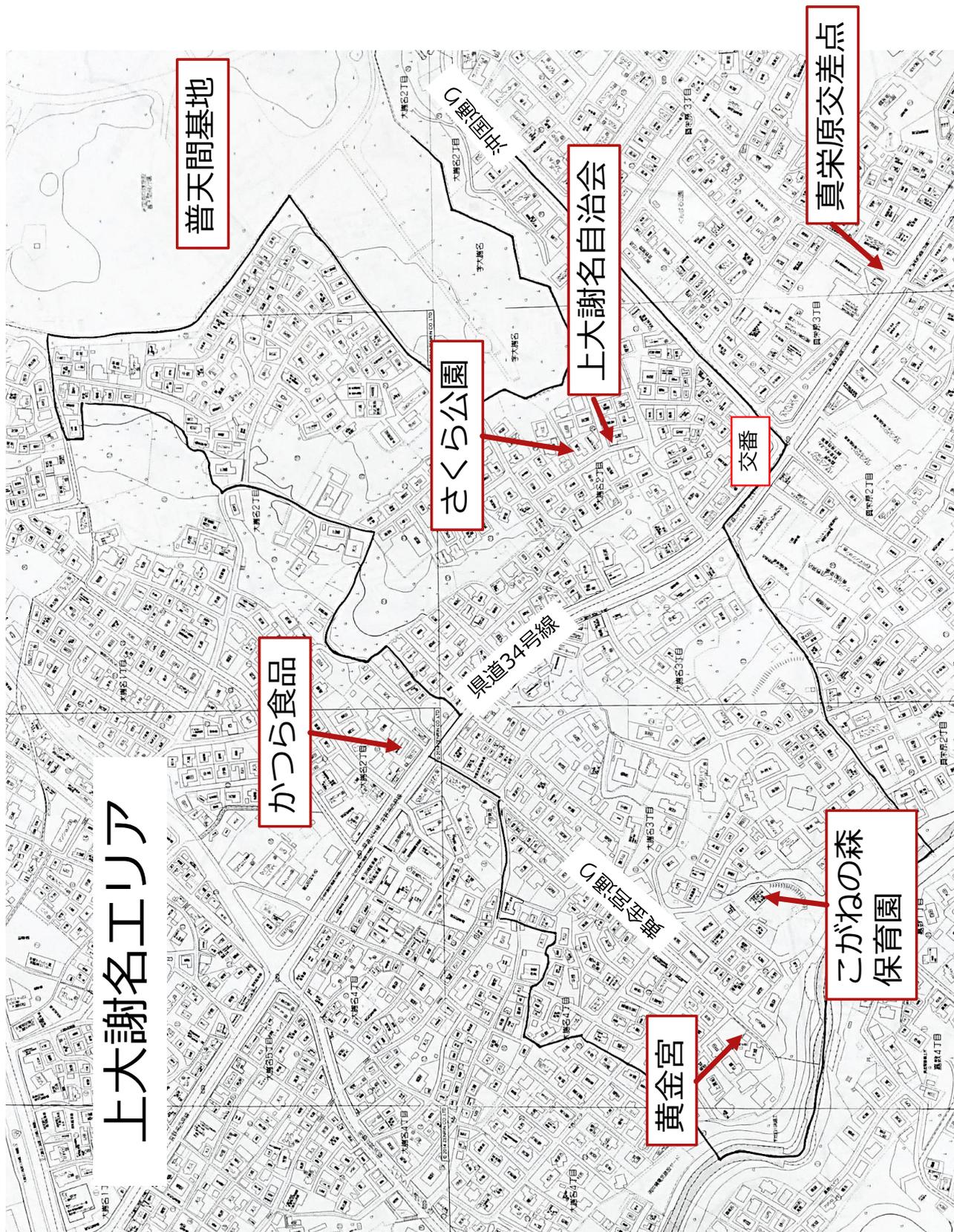
ぎのわん地域づくり塾では、上大謝名に寄り添った企画提案を行うことを目的とし、自治会長である大城ちえ子会長に、自治会に寄せられる相談ごとや、不安なことなど、現在の困りごとを挙げていただいた。その困りごとをまとめると、以下の4項目に分類される。

表 大城自治会長がみる上大謝名の困りごと

分野	地域課題（例）
新しい公民館 利用者の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館に来る方の顔ぶれが固定化しており、新しい参加者の広がりが薄い。 ・地域として外部の団体をどのように受け止め、連携していくのか。
地域の居場所 づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・県道 34 号線をはさんで反対側の方は、公民館まで距離があり、足を運びづらい。
子ども会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代の「子ども会」への参加をどのように促すか。
高齢者の 体力維持	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化社会に備え、高齢者体操の DVD 化など体力維持に努めている。この取り組みを継続的なものとして展開したい。



【上大謝名 MAP】



<主催者からみた地域づくり塾>



塾長 松川正則
宜野湾市 市長

本市では、宜野湾市市民協働基本指針に「誇りと愛着の育まれるまちづくり」を掲げ、協働によるまちづくりを進めているところでございます。その実現のためには、一つの組織、団体では対応できない複雑化した地域課題を、様々な人や組織が関わり解決していくことが求められております。当塾は、そのような人や組織の「つなぎ役」となる人材の育成を目的として平成 28 年度より開催しております。

今期の課程を修了した 3 期生の皆さまにおかれましては、今後も引き続き卒塾生とともに自主交流会や活動にご参加下さり、協働による地域づくりの担い手、つなぎ手として、ご活躍されることを期待しております。



多和田眞光
宜野湾市社会福祉協議会
会長

本塾では、地域の現状をモデル地区である上大謝名の住民から聞き取り、まち歩き等とおし地域の課題を見つけだし、解決に向けた企画提案までをコーディネーターの視点で企画提案をしていただきました。塾生の皆さまには、こうした実践活動とおし地域コーディネーターとしての役割や技法などを多く学び習得されたと思います。

卒業された塾生の皆様には、今後の宜野湾市の地域づくりの担い手として大いに活躍されますことを期待しています。

第2章

ぎのわん地域づくり塾の 講座内容

第2章 ぎのわん地域づくり塾の講座内容

(1) 第1回 <公開講座> 地域コミュニティを経営する

【ねらい】

- ・ 地域づくりのプロセス、コーディネーターの役割の共有
- ・ 地域づくりの楽しさを知る

○概要

「ぎのわん地域づくり塾 2018 第1回講座」は公開講座として櫻井常矢教授と繁多川公民館の南信乃介館長をお招きして、「持続可能な地域づくり」について考えた。南館長から繁多川地域における地域づくりの実践事例を紹介いただき、「地域課題と地域資源に地域の方が気づくことの大切さ」を学び、櫻井先生から新たな地域づくりへの視点としてコミュニティービジネスの必要性等をお話しいただいた。

テーマ：地域コミュニティを経営する

日時：平成30年7月2日（月）18:00～21:00

会場：男女共同参画支援センターふくふく

講師：櫻井常矢氏（高崎経済大学 地域政策学部 教授）

ゲスト：南信乃介氏（NPO法人1万人井戸端会議 代表理事、那覇市繁多川公民館 館長）

参加：69名（企業、自治会、NPO、福祉事業所、学生、社協、行政、他）



69名の参加者が地域づくりについて学ぶ



櫻井常矢教授と南信乃介氏による講演

～ 塾生の声 ～

- ・ 公民館の機能を改めて学ばせて頂きました。また、丁寧に“承認”する作業や活躍する場を創出していく方法も大切だなと感じました。
- ・ 主体的に参加を促していくには、南さんのようなコーディネーターの存在が不可欠と思った。小さな気付きには、人の意欲を左右する力があると思う。
- ・ 地域の課題を資源とらえる視点や、スムーズに地域づくりを行っていくための学習の大切さとキャッチボールの大切さ。

(2) 第2回 地域づくり実践の現場から学ぶ

<モデル地区上大謝名>の地域課題と実践を知る

【ねらい】

- ・ 塾生同士が知り合う
- ・ 全7回のプログラムを理解する
- ・ モデル地区の「上大謝名」について、「地区の状況」「自治会の取り組み」「地域課題」を知る

○概要

第1回講座の振り返りから始まり、「部屋の四隅ワーク」によって、塾生同士の共通点からお互いが知り合うきっかけを作った。上大謝名の歴史や特徴、現在の地域活動、地域課題について大城自治会長、金城トヨ子氏、垣花辰勇氏にお話しいただき、上大謝名の4つの地域課題をご提示いただいた。

テーマ：地域づくり実践の現場から学ぶ <モデル地区上大謝名>の地域課題と実践を知る

日時：平成30年7月27日（金）19:00～21:30

会場：上大謝名公民館 集会室（1階）

情報提供：大城ちえ子氏（上大謝名自治会長）、金城トヨ子氏（かつら食品代表）

垣花辰勇氏（元上大謝名公民館建設実行委員長）

参加：36名（塾生）



「部屋の四隅ワーク」から共通点を探し塾生同士が知り合う



大城会長と垣花氏、金城氏から上大謝名について聞く

～ 塾生の声 ～

- ・ まちづくりには地域が一体となって結束しなければいけない、ということが心に響きました。
- ・ 上大謝名の公民館建設が出来た経緯を聞くことで、地域の力を集めるには「一つの目標」を提示していくことが大切だということを学ぶことができた。
- ・ 地域のニーズを知るということで、現在の上大謝名に至るまでの地域の歴史や住民の背景を学び、上大謝名の特徴や地域の雰囲気がとてもイメージしやすかったです。
- ・ 地域の歴史を知ること、今につながる地域性を知ることができた。

(3) 第3回 上大謝名の地域課題の「現象」と「原因」を考える

【ねらい】

- ・ チームに分かれ、取り組むテーマを決める
- ・ 上大謝名の「地域資源」や「外部団体との繋がり」を知る
- ・ 取り組む「地域課題」を、「現象」「原因」に分けてチームで出し合い、拡散、共有する

○概要

チームに分かれ自己紹介を行った後、(株)がちゆんと上大謝名自治会で連携した学習支援の取り組みを平仲氏にお話いただいた。上大謝名の4つの困りごとの中から、チームで取り組みたいテーマを決め、そのテーマに関わる上大謝名の困りごとを現象（目に見える困りごと）と原因（引き起こすもと）に分けて書き出しながら整理した。その後、各チームで発表し共有した。

テーマ：上大謝名の地域課題の「現象」と「原因」を考える

日時：平成30年8月10日（金）19:00～21:30

会場：上大謝名公民館 集会室（1階）

情報提供：平仲稚菜氏（株式会社がちゆん）

参加：36名（塾生）



チームに分かれ、各チームで自己紹介



チームで、取り組む課題の現象と原因を話し合う

～ 塾生の声 ～

- ・ 地域住民と外部の地域の人と違った視点、上大謝名自治会の困り事を情報共有、検討できた事がとてもおもしろかった。
- ・ 外部と連携できる風土といった、上大謝名の強み、資源が故であり、取り組みをする上で、その地域のことをよく理解、分析することの重要性を感じました。
- ・ 参加者の方の年齢や仕事幅が広いので、いろいろな意見が聞けるし、視点も違うので、新しい発想に、結び付きます。

(4) スキルアップ講座 「企画」の立て方とファシリテーション

【ねらい】

- ・ 話し合いの進め方の基礎スキルを得る
- ・ チームディスカッションのルールづくり
- ・ 話し合いのプロセスや役割について学び、実践する
- ・ 上大謝名への企画提案に向けた企画の立て方の共通理解を得る

○概要

本講座では、塾生だけでなく社会福祉協議会職員の方なども交え、地域づくりの基礎となる「話し合う」ためのスキル「ファシリテーション」と企画の立て方について学んだ。地域づくり塾の話し合いで大切にしたいグランドルールの作成や、話し合いのデザインについて学び、チーム毎にミニ会議を行うことで、ファシリテーションの実践を体験した。

テーマ：「企画」の立て方とファシリテーション

日時：平成30年8月19日（日）9:00～15:30

会場：宜野湾市社会福祉センター 2階ホール

講師：宮道 喜一 氏（NPO 法人まちなか研究所わくわく 事務局長）

参加：25名（塾生）、一般 10名



話し合いで大切にしたいグランドルールの作成



ミニ会議により、ファシリテーションを実践

～ 塾生の声 ～

- ・ コーディネーターとしてファシリテーションを意識して、目的、目標を共有する必要がある。
- ・ ファシリテーションの技術は会議の場だけのものだと考えていたが、その事前準備の段階から含まれていることに驚かされ、今後は意識していきたい。
- ・ 「相手の判断を助ける情報のプレゼント」で表現の方法も、誰に何を伝えるかによって決めていく必要性も学ぶことができました。
- ・ チームで大切にしたい5つのことをチーム内で共有できたので良かったと思いました。

(5) 第4回 地域課題を調べる ～フィールドワークの作戦会議～

【ねらい】

- ・ 前回チームで出した様々な何とかしたい「現象」から今回取り組む一つをチームで選ぶ
- ・ 次回のフィールドワークに向けて、どのような情報を得たいのかを明らかにする。(地域インタビューで誰にどのような質問をするのか、まちあるきではどこを歩くのか等)

○概要

市社会福祉協議会と FM ぎのわん、地域包括支援センター、上大謝名自治会の4者協働で作成したステップダンス DVD 作成の取り組みを紹介いただいた。その後、第3回で出した何とかしたい「現象」(困りごと)から、具体的に取り組みたい課題を話し合い、インタビューとまちあるきから得たい情報を書き出していった。また、「質問リストづくり」、「まちあるきルートづくり」を各チームで作成した。

テーマ：地域課題を調べる ～フィールドワークの作戦会議～

日時：平成30年9月6日(木) 19:00～21:30

会場：上大謝名公民館 集会室(1階)

情報提供：赤嶺舞氏(宜野湾市社会福祉協議会)、山内一郎氏(株式会社 FM ぎのわん)

百次由美子氏、仲尾次清美氏(地域包括支援センターふれあい)

参加：28名(塾生)



4者協働のステップダンス DVD 作成の取り組みを紹介



「まちあるきルートづくり」を各チームで作成

～ 塾生の声 ～

- ・ 具体的に考えてみる、ということの大切さ。課題を漠然ととらえるのではなく、実現可能な視点から考えてみる。
- ・ 誰の困りごとなのか、本当に困っているかをもう一度考えることができました。
- ・ ダンス DVD 作成プロジェクトで、一人の方の「ビデオがあったら」という意見を流さずに取り入れて形にして素晴らしいと思いました。
- ・ ニーズをどのようにマッチングしていくのか、コーディネートがむずかしい。

(6) 第5回 フィールドワーク ～地域インタビュー・まちあるき実践～

【ねらい】

- ・ 地域インタビューとまちあるきを通して、各チームで設定した「現象」（困りごと）を深めるための情報を得る
- ・ 次回の企画づくりと中間発表に向けて、情報をまとめる

○概要

初めにインタビューの作戦会議として、誰にインタビューするか質問項目の再検討をしたあと、民生委員、子ども会、婦人会、まちづくり結愛会、地域支え合い活動委員会等に所属する上大謝名住民6名と上大謝名住民の塾生の皆さんへのインタビューを行った。上大謝名の特徴や現在の活動等、地域で暮らす方だからこそ見えていることを教えていただいた。また、各チームで上大謝名のまちなみの調査や、お宅を訪問して住民の方に話を伺った。その後は、得られた情報をまとめ、各チーム発表を行った。

テーマ：フィールドワーク ～地域インタビュー・まちあるき実践～

日時：平成30年9月17日（月・祝）13:00～17:00

会場：上大謝名公民館 集会室（1階）

講師：櫻井常矢氏（高崎経済大学 地域政策学部 教授）

参加：22名（塾生）、6名（上大謝名住民）



上大謝名の方々へのインタビュー



上大謝名の黄金宮を調査

～ 塾生の声 ～

- ・ 地地域の中で活動している人々の間でも、お互いの情報が知られていないと感じた。
- ・ 人材は豊か。点と点をつなぐネットワーク作りが大切。
- ・ 個々の活動は活発なのに、横のつながりががないという気づき各グループからあった。
- ・ 当事者意識に縛られないことも大切。
- ・ 地域の方の生の声を聴けて良かった。意見に違いはあっても望む未来像は共通していると感じました。

(7) 第6回 地域の課題解決の企画づくり ～5チームの中間発表～

【ねらい】

- ・ 各チームの最終発表のイメージづくりと内容の作成
- ・ 各チームの現状の発表と「質問」「意見」をもらい、企画をブラッシュアップする

○概要

上大謝名の課題の解決に向けて、①チームで設定した「地域課題（困りごと）」＋設定した理由、②地域課題（困りごと）の解決方法、③上大謝名でどうやったら実現できるか（実現する道のり・プロセス）を基に、企画づくりを午前中に行った。午後からは、上大謝名に貢献する発表を目指し、中間発表を行った（発表時間7分／質疑応答5分）。発表を聞く塾生は、発表チームに貢献する「質問」「意見」を付箋紙へ書くことや質問することで、お互いの発表に対して意見を交わした。

テーマ：地域の課題解決の企画づくり ～5チームの中間発表～

日時：平成30年10月6日（土）9:00～15:30

会場：男女共同参画支援センターふくふく

参加：22名（塾生）



中間発表前の準備風景



中間発表風景(Discover チーム)



～ 塾生の声 ～



- ・ 他のチームから頂いた感想や質問からチームの不足点などを客観的に知ることができた。
- ・ 今後の発表に関しては、初めて聞く方にも分かりやすいようにまとめることが必要。
- ・ 各チームの発表はテーマも角度が違い、非常に面白かった。
- ・ 具体的な数字・事例などが資料としてあるとより分かりやすい。
- ・ 最終発表に向け、今回でた課題を明確にして、もっと内容の濃い提案ができればいい。
- ・ 数値化したり、見える化する必要がある。

(8) 第7回 上大謝名に向けた最終発表・修了式

【ねらい】

- ・ 上大謝名に貢献することを目標に各チームが発表を行い、宜野湾市の協働の地域づくりにつなげる
- ・ 次年度のモデル地区につなげる

○概要

塾生は午前中に発表準備を行い、午後から最終発表を行った。上大謝名をフィールドに4か月間学んだ成果を、上大謝名の皆さんに向けて、5つのチームが発表した。上大謝名の方から各発表に対するコメントを頂き、課題の共有を行った。全チームの発表に対するコメントを大城自治会長、櫻井常矢教授からいただいた。その後、修了式にて、宜野湾市企画部米須部長から塾生に修了証を授与し、ぎのわん地域づくり塾を修了した。

テーマ：上大謝名に向けた最終発表・修了式

日時：平成30年10月21日（日）9:00～16:00

会場：上大謝名公民館 集会室（1階）

参加：29名（塾生）、9名（一般参加者）



上大謝名の皆さんの前で企画提案発表



修了式にて修了証書授与

～ 塾生の声 ～

- ・ 各チームの発表は、それぞれ個性があつて、自分が気づかなかつた事に気づかされました。
- ・ 悩みが深く、考えることも多く、苦しい時間もありましたが、悩みつづけた結果を皆で共有し、共感し、達成できたことは、この先、大きな心の支えとなることでしょう。
- ・ 様々な世代や職種の人々と交流することで、“協働”について肌で学びました。
- ・ 改めて地域づくりはプロセス（話し合い、地域の声を聞く等）であることに気づかされた。
- ・ 民主主義と課題解決力は遠まわりなもの

<企画発表に対する上大謝名住民のコメント>

各チームの最終発表後に、発表に対する感想を上大謝名自治会の皆さんにお聞きした。



地域には色々な方がいると思うので、この企画が行われたら、活性化すると思います。上大謝名には外人さんが22名いるとのことですから、色々な世界の技も見れるかもと、楽しみになります。大変よいアイデアをありがとうございました。ぜひ、応援させてください。



一番足りないのは、広報ではないかと思っていましたが、広範囲に人を集めて行うのは良い方法だと思います。人材集めを、どの様に行うのが、キーワードになると思いますが、それは、こちらも協力していきながら、頑張っていきたいと思います。



私も音楽が好きなので、大賛成です。例えば、察度音頭や黄金宮音頭とか、それをミュージカル化して子ども劇を行うと、大変よいのできるかな、と感じました。



老若男女集まるのが公民館、近年引っ越して来た方にもお声掛けをしながら、この地域の発展のために、100歳ぐらいまで公民館に来たいと思います。

表 企画発表一覧

企画タイトル	チーム名
地域の宝を喜爆剤に！	A・F チャンプルー
上大謝名と大謝名 合同円卓会議 ～子どもの居場所づくりを中心に～	くがにーず
異世代マッチング	アンダーみさご
広報委員会をつくろう！！	Discover
子どもが消えた！！全員集合！公民館へ！	UP 大謝名チーム

<アドバイザーからみた地域づくり塾>



櫻井常矢 教授
高崎経済大学
地域政策学部

3年目を迎えた今回の地域づくり塾では、年齢、職業、経験などが実に多様な皆さんが市内外から集結しました。そして、世代を越えた塾生同士の協力関係が強く印象に残るものとなりました。ともに集まるための時間を確保したり、熱心に議論したり、悩んだりを積み重ねる姿がありました。そうした塾生の根気と努力に一貫して支えられた塾であったと思います。最終日の発表内容を単なる提案にとどめることなく、上大謝名地域の皆さんとの具体的な地域づくりの実践に結びつくことを願っています。

この塾での出会いを各人にとっての大切な力として、ぜひこれからも一緒に頑張っていきましょう。

第3章

上大謝名の困りごとに応じた 企画提案

第3章 上大謝名の困りごとに応じた企画提案

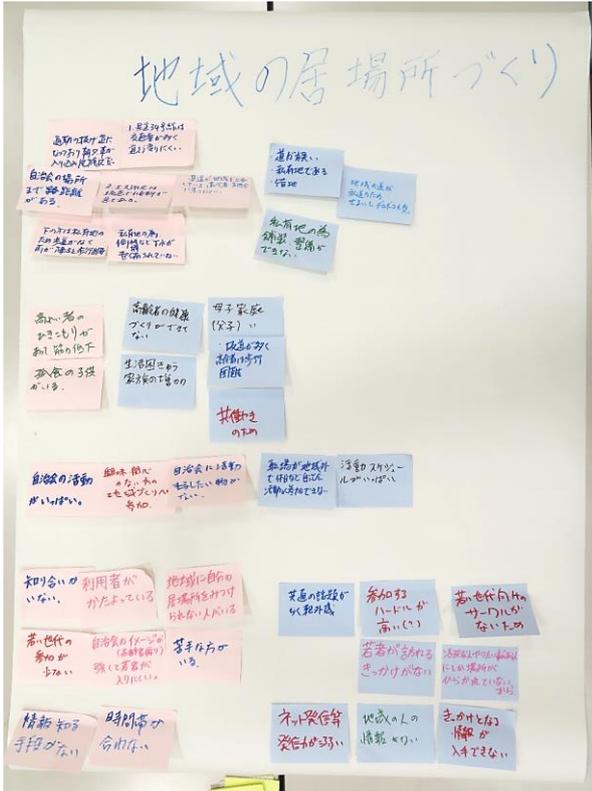
(1) 地域の宝を喜爆剤に！ (チーム名：A・F チャンプルー)



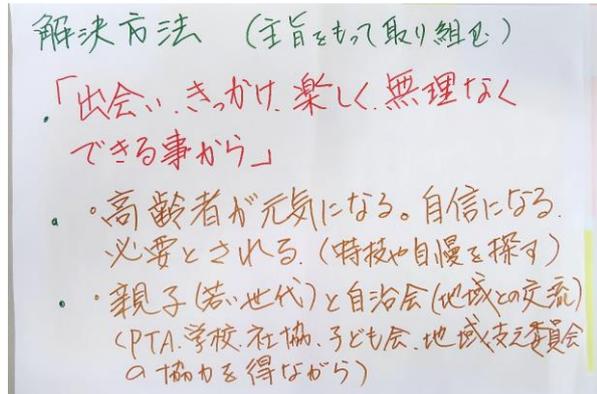
メンバー氏名	所属
安里 花織	中城村役場福祉課
新垣 真弓	市民協働審議会委員
知名 定哲	浦添市地域包括センター
富浜 正子	上大謝名自治会
根神 富士子	ヘルパーステーションぎのわん

【企画概要】(企画書を基に事務局が作成)

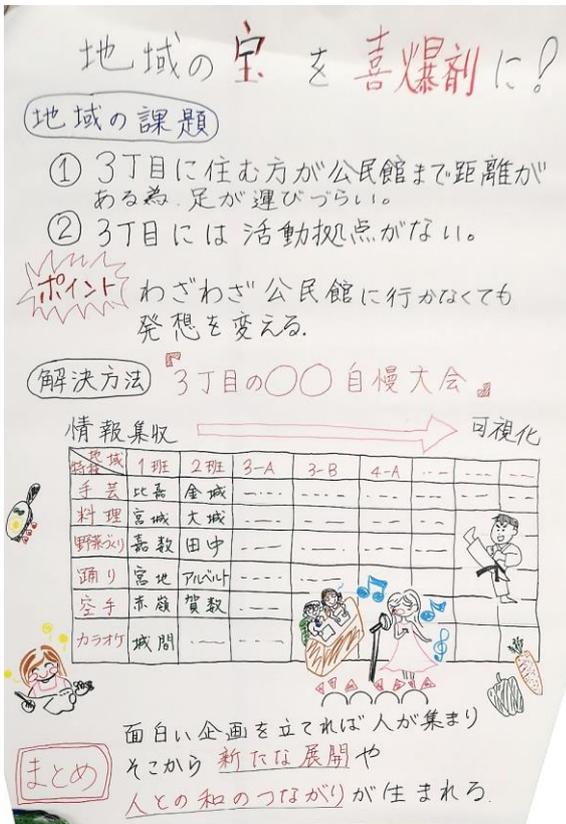
○地域課題 (困りごと)	県道34号線を挟んで反対側(3丁目)に住む方が公民館まで距離がある為、足が運びづらい。3丁目の所には活動拠点がない。上大謝名3丁目でも出来る活動や拠点作り、またその地域にある資源を知ることが重要だと考えた。
○解決方法	○「3丁目一の〇〇自慢大会」を開催 目的：上大謝名3丁目に住む住人をはじめ、上大謝名の住民が輝ける(活動できる)交流の場の作成、人材の発掘、それを可視化すること。 いつ：まず3丁目の中心となる各班長らが3丁目独自で何か企画を実施したいと決心した際(企画などについて賛同してもらうように日頃から仲間内に語る) 誰が：3丁目の各班長(企画を実施したい人) 誰と：3丁目に住む民生委員や自治会の団体(婦人会、こがね会等)、こがねの森保育園関係者、PTA等
○実現する道のり・プロセス	自慢や特技などの資源マトリックス図作りに必要な情報収集を、班長が各班の住民を対象にチラシを配布して行う。まとめた情報は3丁目に住む人材資源(宝)としてマトリックス図にまとめる。完成したあと、一度、その特技を3丁目住民に自慢してもらおう。また、被っている特技があれば互いに自慢アピールを行い、1番を競い合ってもらおう。自慢大会の会場は、こがねの森保育園の敷地をお借りする。 ねらい：資源の発掘、また得意とする活動や人材を必要としている方にマッチング、もしくは、サークル活動に講師になってもらい指導。(技術や知識を伝承) 資源が可視化されることで、だれもが情報共有が図られる。



チームで取り組む課題の現象と原因を整理



中間発表での作成資料



最終発表での作成資料



中間発表の様子

(2) 上大謝名と大謝名 合同円卓会議 ～子どもの居場所づくりを中心に～

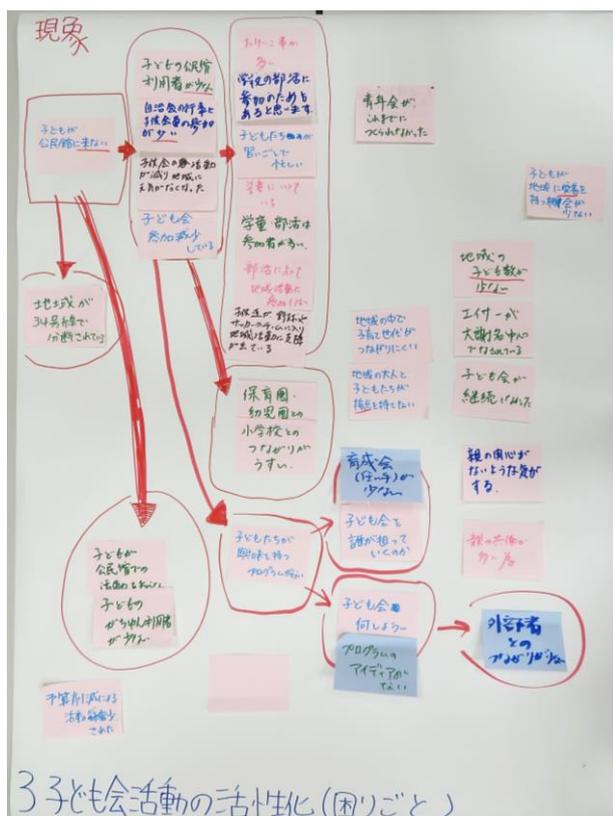
(チーム名：くがにーず)



メンバー氏名	所属
上原 真紀	沖縄 NGO センター
金城 愛弥	琉球大学
児玉 光也	琉球大学
棚原 八代子	上大謝名自治会
長濱 美津枝	民生委員児童委員
波平 道子	上大謝名自治会

【企画概要】(企画書を基に事務局が作成)

○地域課題 (困りごと)	夏休みには、公民館の玄関にある本を閉館まで読みふける子ども達がいるため、自治会/公民館が子どもの居場所の役割を担っている。また、街歩きやインタビューを行っていく中で、34号線を挟んで向こう側から子どもが公民館に足を運ぶのは大変であること、大謝名という地域がとても近い存在であることを実感した。そのため、子どもの居場所づくりを上大謝名だけで捉えるのではなく、同じ小学校区であり、かつ隣接している大謝名地域と合同で行う必要がある。したがって、「上大謝名・大謝名地域における子どもの居場所づくり」を地域課題と考えた。
○解決方法	<p>「上大謝名と大謝名合同円卓会議の開催」</p> <p>目的：①「子どもの居場所づくり」に関わる方がたで、問題意識や実際行っている活動の共有をすることで、重層的に「子どもの居場所づくり」を捉える。②各自の組織や団体でやるべきことの再認識。③1つの組織や団体では行うことが困難であった活動の実現や長所や特色を活かし、仕事を分散させ各々の負担軽減等。</p> <p>内容：問題意識や子どもを取り巻く環境についての意見交換や実際に行っている取組を報告・共有する。次に、挙げた意見や活動などを整理し、各自がもっている資源を結び付けることや、資源を活かして新たな活動を行えないか模索していく。</p>
○実現する道のり・プロセス	<p>円卓会議の先導役：児童/民生委員は中学校区で選ばれ、上大謝名・大謝名のそれぞれの委員同士で既に交流があるため、両地域の児童/民生委員のうち地域支え合い活動委員会のメンバーが適切ではないかと考えた。</p> <p>内容について：複数回開催を視野にいれて、毎回「学習支援」についてなど特定のテーマのみ語り合うことで、話がまとまらないことを防ぎ、より実現性の高い活動の提案を目指す。</p>



チームで取り組む課題の現象と原因を整理

上大謝名区の
地域課題と原因

自治会の行事に子どもたちの参加が少なく、子ども会の活動が減り、地域に元気がなくなった

原因は 34号線に分断されている

- 子どもの習いごとや部活動によって地域の活動に参加できない
地域の大人と子どもたちの接点がない
- 学校や他地域世代とのつながりが弱く、育成会の担い手が少ない
子育て世代が公民館とつながっていない

※資源としてのがちゅんの活動が活かされていない

中間発表での作成資料



最終発表の様子

(3) 異世代マッチング (チーム名：アンダーみさご)



メンバー氏名	所属
天久 静子	上大謝名自治会
平良 忍	上大謝名自治会
浜田 キヨ子	上大謝名自治会
比嘉 いつみ	嘉手納町社会福祉協議会
眞志喜 初枝	大謝名区自治会
屋良 さつき	めぶき職員

【企画概要】(企画書を基に事務局が作成)

○地域課題 (困りごと)	上大謝名では、子育て世代(20~40代)の人口割合が高いにも関わらず、若い世代の自治会への参加が少ないという現状がある。今は地域で支え合っているが、将来担い手不足によりコミュニティがなくなり支え合いができなくなるのではないかと。老人会・婦人会から、「子育て世代と交流したいがどうアプローチしていいのかわからない」との声があった。一つ一つの団体は、活発に活動しているが、団体同士の交流は少ないことが分かった。そのため、子ども会の活動を他の団体の手を借りて行くと、上手く実行に至るのではないかと？
○解決方法	「郷土料理(得意料理)教室を開催して、異世代交流の機会をつくる」 目的：子育て世代を中心に、公民館の利用を増やしてもらう いつ：定期的に(月1回もしくは2ヶ月に1回) どこで：上大謝名公民館 誰が：老人会、婦人会、子ども会、子育てサロン 誰と：子育て世代 予算：「宜野湾市地域づくり事業」を利用
○実現する道のり・プロセス	①事前打ち合わせ 各団体長(自治会・老人会・婦人会・子ども会・子育てサロン) ・料理教室をしてくれそうな人のピックアップ ・作業分担(当日進行、講師、買い出し、広報、当日案内係り、記録、掃除) ・スケジュール表作成 ・シミュレーションをしてみる→問題点の洗い出し 等 ②実行 参加者は原則上大謝名住民 ③反省会 良かった点や問題点を次回に活かす

☆新しい公民館、利用者の拡大 C

子ども会 子育てサロン

子どもは参加するが
来見は来ない
↓
つながりはある!(LINEグループ)
アイデアが出るが...

課題: ① 実行までに至らない
② イベントなどの情報伝達
③ 新しい人たちが入りこい!

PTA

- 見える化
- 口コミ
- マッチング(学校行事と照らし合わせて)
- 会費100% (動機づけ) (将来像)

おじいさんおばあさん
自分の子どものこと
だと協力してくれる!

老人会 婦人会

課題: ① 子育て世代と交流したい
どうアプローチしていくか...

チーム名: アンダーみさご

系統・方法

- 子ども会だけでなく
老人会・婦人会の手も借りて行う!
- 子どもの居場所
- 子ども会の保母者に向けた勉強会
(運営、ファシリ)

リーダー育成

わかちあひ

- 1つ1つの団体はとも活発!!

イメージ図 (将来)

市・企業

案: 親子で参加できるイベント!!

結愛会

- 己をつくり
- 仲間をつくり
- 地域をつくり

子どもにも
イベント出席側になる

※時間をかけて

普天間3区

- ラジオ体操場
- 民生館バリアフリー
- 自治会長おとし(心)
- 戻ってきたくなる地域

インタビュー、まちあるきから得られたこと

チーム・アンダーみさご

① タイトル 異世代マッチング

② 提案する相手 (老人会・婦人会 子育て世代の親・子ども) 上大謝町名地域住民

人口比率 一番多い!! (30~40代)

実現するための道のり:

- 事前打ち合わせ
 - 当日進行役 各団体長 (自治会、老人会、婦人会、子ども会)
 - 異世代 料理教室をきっかけに交流
 - 広報 (チラシ、ポスター、講師 依頼)
 - スケジュール表作成 (10/24日回)
 - 当日準備
 - 当日実施
 - 当日準備
 - 当日実施
- 反省会
 - 問題点を次回に活かす
 - 次のため

④ 解決方法

目的: 子育て世代を中心に公民館の利用を増やす!!

いつ: 定期的 (月1回、2ヶ月1回)

どこ: 公民館

誰が: 老人会 婦人会

誰と: 子育て世代

何を: 郷土料理教室の開催

予算: 自治会財源 + 参加費

③ 地域課題(困りごと)の解決方法

誰が 地域住民全体が

何をする 自治会に若い世代が来ない 交流がない

担い手がなくなった

今は支え合っているが

将来 コミュニティがなくなる

支え合いがなくなる

サ-ア-ダギー

- 中身汁
- ソーキ汁

郷土料理 (得意料理)

その人が作れなくても
その知人などにお願ひする
外人の活用

× 自治会に入りませんか? (まだおっく)

○ 教えてくませんか? ⇒ 交流

外国人 東京出身 + 方言(方言)

料理教室 + 茶会話

茶会話

定期開催 (月1回)

中間発表での作成資料

(4) 広報委員会をつくろう！！ (チーム名：Discover)



メンバー氏名	所属
上原 一哲	宜野湾市社会福祉協議会
大城 ちえ子	上大謝名自治会
岡田 紀子	上大謝名自治会
垣花 辰勇	上大謝名自治会
瀬崎 正敏	宜野湾市役所生涯学習課
苫米地 瑠璃	嘉手納町社会福祉協議会
山内 一郎	FM ぎのわん

【企画概要】(企画書を基に事務局が作成)

○地域課題 (困りごと)	上大謝名地区は様々な分野で多くの魅力に恵まれているが「公民館や行事に参加する人が固定化してきて、新規加入者が少ない」という課題がある。インタビューから、「自治会加入のメリットがわからない」「自治会のブログがあるのがわからない」「地域の放送は聞こえにくい」「活動を見える化すればいいのではないか」などの意見があり、「広報のやり方」に課題があると仮定した。
○解決方法	『広報委員会をつくろう！！』 広報は、活動分野が幅広く多岐に渡り、大きな労力が必要になる。さらに、予算もかけられないため、どの地域でも非常に難しい課題である。 広報のポイント：①情報を集める、②様々な世代によって情報収集の方法が全く違う、③広報手段が多岐にわたっている、④予算に制限がある 上記を精査した上で、方法を立案し、実行する組織が広報委員会である。
○実現する道のり・プロセス	広報委員会が機能するためには、様々な年代の方に委員になって頂き、かつ広報活動が好きな方を委員に取り込んでいく必要がある。そこで、広報につながるような講座を上大謝名公民館で行ない、その講座を通して広報委員を募集する。 <講座例> ・SNS活用講座(20代～40代) ・YouTuberになろう(10代～30代)等 ○広報委員会の問題点 1. 上記講座や委員加入への呼びかけの「広報」 既存の広報を活用しつつ、関係機関や協力企業に協力を呼びかける。 ・弁当にチラシを挟む ・FMぎのわんの利用 ・大学での呼びかけ 2. 広報委員会の継続的な活動 ・委員を上大謝名地区に限定しない ・成果を見える化 ・他自治会や団体への講師 ・既存の地域組織との連携



チーム Discover 広報委員会をつくらう!

課題

- 公民館を利用する人や行事に参加する人がいつも一緒。
- 新規加入者が少ない。

↓ 魅力があるのかな?

広報ツール

- 自治会だより (月1回) → 自治会加入者のみ配布
- 自治会ブログ
- 掲示板 (9ヶ所)
- 区内放送

インタビュー まちあるき

- 掲示板、見ている。
- 区内放送、聞いている。一方で...
- 自治会加入のメリットわからない。
- 自治会のブログ 知らない。
- 区内放送が聞こえない。
- だから...
- 活動の見える化

↓

広報のあり方に課題があるのでは?

自治会に加入していない人が地域清掃には参加する!

地域資源

- さくら公園 ・黄金宮 ・夏祭り
- こいのぼり掲揚式 ・がちゆん
- ぶくろうブローチをつくる方 } 人材が豊富!!
- 散髪、庭ぞうじの協力者 }
- 協力企業 23社 (弁当、車屋)

どんな広報をしたらいいんだろう...

そっか!!!

広報委員会をつくらう!!!

広報のポイント

- 情報を集める。(地域の)
- 世代によって、情報収集の方法が全くちがう。
- 広報手段が多岐にわたっている。(掲示板、区内放送、自治会だより、口コミ、SNS など)
- 予算に制限がある。

広報委員を集めるポイント

- 様々な年代の方に委員になってもらう。
- 広報活動が好きの方に委員になってもらう。
- そこで... 広報に興味を持ってもらう。広報委員を集めるために講座を行う!!

これらの課題を解決するために

講座例

- SNS講座 (20代~40代)
- You Tuberになろう (10代~30代)
- 写真の撮り方 & デジタル講座 (インスタ映え)
- チラシの作り方 & デザイン講座
- スマホの使い方講座 (60代~80代)

広報委員会の問題点

- 講座や広報委員からの呼びかけの「広報」
 - 弁当にチラシを挟む。
 - FMぎのわんの利用。
 - 大学での呼びかけ。
 - 協力企業の営業車などにチラシを貼ってもらう。
- 広報委員会の継続的活動
 - 広報委員を上大謝名に限定しない。
 - 広報の成果を見える化する。
 - 他自治会や団体の講師になる。
 - 既存の地域組織との連携。(子ども会、婦人会、老人会 など)

最終発表での発表資料

(5) 子どもが消えた！！全員集合！公民館へ！ （チーム名：UP 大謝名チーム）



メンバー氏名	所属
翁長 笑花	宜野湾市社会福祉協議会
兼城 千志	介護施設職員
幸地 進	上大謝名自治会
仲宗根 智也	訪問介護ステーションふれあい
眞壁 由香	沖縄 NGO センター
屋良 良恵	上大謝名自治会

【企画概要】（企画書を基に事務局が作成）

○地域課題 （困りごと）	<p>(1) 子ども達の足が公民館から遠のいている。</p> <p>(2) 子ども会と他組織等との連携が上手くいっていない。</p>
○解決方法	<p>(1) 子ども会を主体としたイベントを行う。</p> <p>① 察度の歴史を取り入れたカチャーシー。</p> <p>② 小学生対象の音楽教室の開催。</p> <p>③ カチャーシーと音楽をミックスした創作劇、「組踊『察度伝説』」の実施。</p> <p>④ 多種多様なゲーム大会、お楽しみ会（慰労会）の開催。</p> <p>(2) 広報委員会の設立</p> <p>① SNS（フェイスブック、インスタグラム、ツイッター）で自治会情報の発信。 ハッシュタグを活用し、短時間で検索できるよう工夫する。 例) #上大謝名自治会 #宜野湾市お祭り #ぎのわん情報発信アプリG1</p> <p>② ミニディやウォーキングサークルの参加者全員へ広告チラシを配布する。ネットを閲覧しない世帯（高齢者等）にはポスティングする。</p> <p>③ 上記の活動は（広告チラシの作成含め）原則として、必ず広報委員会が行う。 （役割分担を明確にすることで事務局の負担軽減を図る。）</p>
○実現する道 のり・プロセス	<p>地域づくり推進事業助成金の活用</p> <p>① 外部講師を招き、創作劇の振付けを依頼する。</p> <p>② 音楽教室での演奏練習。</p> <p>③ 他交付団体との交流。（にぬふあぶし、宜野湾市文化財ガイドの会等）</p> <p>○期待できる効果</p> <p>区民に公民館の存在意義を知ってもらい、「地域で子どもを育てる」という意識付けができる。これを踏まえ、自治会加入増を図ることができると考えられる。</p>

<モデル地区の自治会長からみた地域づくり塾>



大城ちえ子 会長
上大謝名自治会

今自治会で一番必要としていることを、地域の方々と学ぶことに、期待がありました。専門の方のご指導の下、地域内外の異職業・異年齢の方々と目標を1つに真剣に議論出来たことがすばらしい体験であり、心の交流でもありました。

地域の人材、資源を活用し仲間と力を合わせて作り上げてゆくことが地域づくりだと教えていただきました。皆様からいただいた提案を大事に、共に学んだ仲間とこれからの地域づくりに取り組んでゆきたいと思っています。

<講師からみた地域づくり塾>



宮道喜一
まちなか研究所わくわく
事務局長

第3期となる今期は、モデル地区となった上大謝名からの参加を多く得ることができました。学びの場を提供いただき、地域外からの塾生とともに議論し、外部からの視点と提言を受け止めてくださった上大謝名の地域の皆さまに感謝いたします。

1期からの総勢93名の修了生が、宜野湾市の協働の地域づくりを進める核となることを期待しています。

第4章

塾生アンケートまとめ

第4章 塾生アンケートまとめ

(1) アンケート概要

○調査方法：ぎのわん地域づくり塾の修了式後、塾生にアンケート用紙を配布して回答を得た。

○回収結果：第3期塾生32名、回答数23名、回収率72%

修了した塾生32名のうち、23名の方にアンケートをご回答いただいた。回答者の年代は下記表のように幅広い年代の方にご回答いただいた。

表 アンケート回答者の年代

年代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
人数(名)	4	6	4	3	3	2	1

(2) 各設問項目の結果

設問1) 2) については、5段階評価で回答頂き、その他の設問は自由記入で回答いただいた。その結果について以下にまとめた。自由記入については原文のまま記している。

設問1) 開催期間、時期について

今回の7月～10月の4カ月間の開催期間について、5段階評価をいただいた結果、全員が「満足」、「やや満足」と回答し満足度は高いといえる。「開催時期はいつがよいですか？」との問いには、「今期と同じ」20名、「別の期間」2名、「無回答」1名であった。別の期間と答えた方は、6月～9月(予算要求時期にかかるため)、9月～12月(8月は実習生の受け入れがある。まちあるきは暑い時期だから)との回答があった。

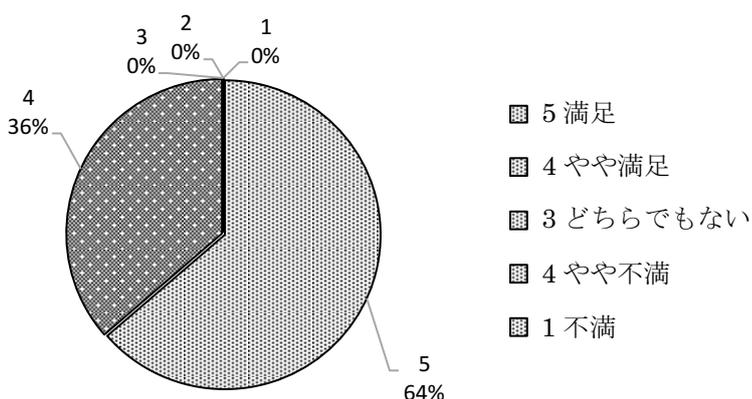


表 開催時期はいつがよいですか？

開催時期	人数(名)
今期と同じ7～10月	20
別の期間	2

図 開催期間の評価(5段階評価)

設問2) 講座について

講座の回数（全7回＋スキルアップ講座）、全体的な講座内容、1講座の時間設定（150分目安）に対する評価を5段階評価でいただいた。「やや満足」と回答した方が最も多く、講座時間で「どちらでもない」と回答した方が1名、講座回数で「やや不満」と回答した方が1名いた。

また、各講座の満足度に関しては、「満足」「やや満足」と回答いただいた方が大多数だが、第5回のフィールドワークで1名の方が「やや不満」と回答している。最も満足度の平均が高いのは、第1回公開講座の4.9、次いで第7回最終発表・修了式の4.77であった。

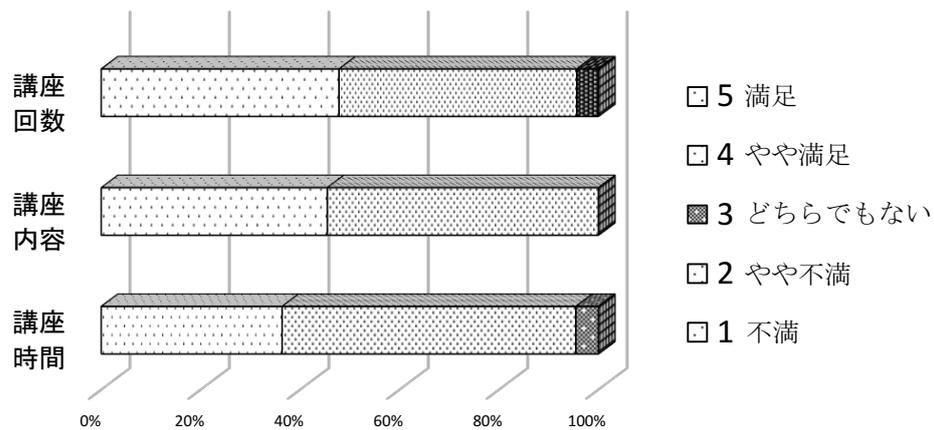


図 講座の設定に関する評価 (5段階評価)

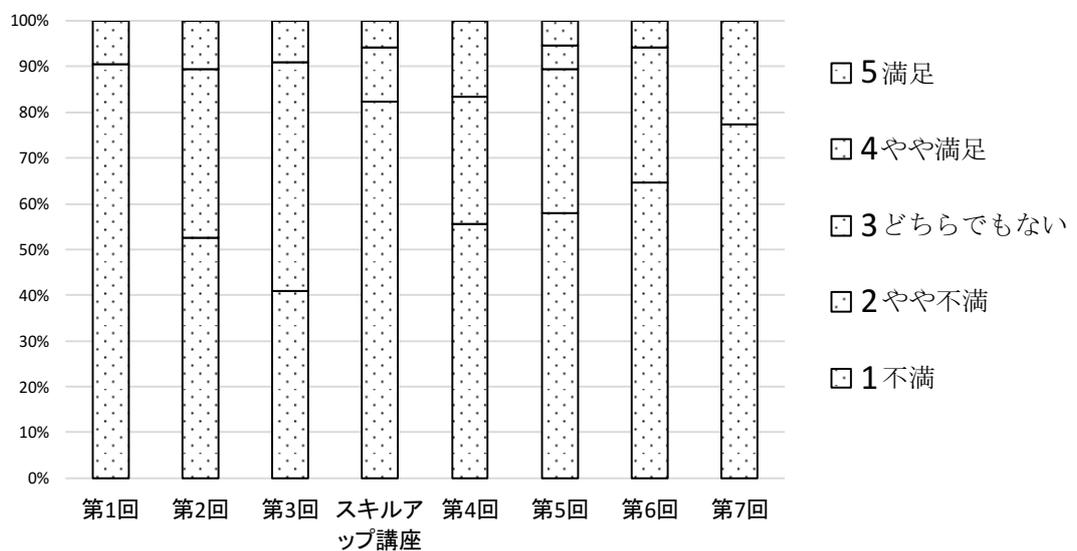


図 各講座の満足度 (5段階評価)

表 各講座の満足度 (平均) (5段階評価)

講座	第1回	第2回	第3回	スキルアップ講座	第4回	第5回	第6回	第7回
満足度 (平均)	4.90	4.40	4.32	4.76	4.39	4.42	4.59	4.77

設問3) 会場(上大謝名公民館、男女共同参画支援センターふくふく)について感じたことがあればご記入ください。(位置や交通の便など)

○良い点

- ・公民館以外は使用した事がない施設だったので、知る事が出来て良かった。
- ・場所がどちらも難しかったが、駐車場も確保されておりよかったです。
- ・大丈夫でした!
- ・対象自治会に足を運ぶことで、対象地域にふれやすく、繋がれたことに満足。
- ・特になし(キレイだし)

- ・環境とても良いと思います。(公園もあり、調理室もあり、)
- ・ふくふくは大学の近くなので便利だった。
- ・良かった。

○改善点

- ・いつも心よく受入れてくれて感謝です。ふくふくは少し場所がわかりにくい方もいらしたのではないのでしょうか。

設問4) チームで企画を考えていくなかで、今回の提供講座以外で必要と感じた内容や改善点はありますか?

○要望

- ・地域の情報(世帯数や子どもの数等、データを配布して欲しかった)
- ・本事業を通じて、また企画につながる民間企業の参加を促してもらいたい。
- ・今回の3期メンバー全体でどんな人材がいて、どんな取組をしているのか知りたかった。
- ・市が持っているデータの照会等について、事前に事務連絡してほしい。

は?と思いました。

○感想

- ・インタビューの時、子ども会の現在の参加者や育成会の人から、声をきくことができなかったのは残念だった。
- ・現状で良いと思います。
- ・少ないグループがあつたりして、うまく話がまとめられたのか疑問。
- ・コーディネータースキルの内容が少し難しく、伝わってなかったように思った。
- ・思った以上に、準備に時間がなかった。

○提案

- ・年配の方への説明や内容に少し工夫が必要で

設問5) スキルアップ講座で得た「企画」の立て方やファシリテーションのスキルを、チーム活動に活用することができましたか。または、チーム活動の行う際に、難しいと感じたことはありますか。

○活用できた

- ・各々の意見を受け入れる、確認する。
- ・「話し合いのルール」を作成したことで、グループで協力してスムーズに話し合うことができた。

- ・ファシリテーションのスキル、難しかったですが、何度も話合ううち、ポイントにすべき所や要点がわかってきた。
- ・スキルアップ講座で決めたチームのルールなどを意識しながら取り組めた、休んだ人にも

必ず声掛けを行うことで、参加できない日があっても、次の会の参加につながった。

- ・グループの「約束ごと」を最初に設定したことで、後のワークがスムーズに進んだ。
- ・チーム内での共通認識の一致、脱線時の軌道修正、「提案」の範囲でとどめる。⇒運営の深い部分は実際に行ってもらう人が教えるべきなので、、
- ・できました！
- ・チーム内でルールを決めることによって、チーム活動を行う際に、皆が同じ認識をもって最後まで取り組むことができた。
- ・スキルアップ講座後は、よいチームがまとまって、話し合いを進めることができたと思う。

○難しかった点

- ・専門性の違いで理解がむづかしい事があったが丁寧に説明してくれた。
- ・チームのメンバーの都合などで、きちんと集まらないことで、独自で企画や考えをまとめて良いのか迷った。
- ・チーム活動を行う際、だんだんメンバーが少なくなり、本来の地域課題に取りくむ事ができなく、難しいと感じた。

設問6) ぎのわん地域づくり塾のプログラムを通じて、どのような学びがありましたか。

○新たな視点からの学び

- ・自分達の活動を進めていく中、横との連携を大切にすることに気付きました。
- ・発想の転換。他の市町村の例で、集まりの悪い消防訓練と運動会を一緒にしたら、大変好評だったとの事。
- ・従来のやり方で行ってもうまくいかない時には、まるっきり反対の事を検討する事も必要かと思う。
- ・地域の方の小さな声をひろって、生かして行く大切さを学びました。

- ・皆さん、毎回参加できるわけではないので、引き継ぎ、つなげ方、難しかった。
- ・私自身、他のメンバーの方も仕事の都合などで、なかなかメンバーがそろわないことが多かったです。
- ・企画を客観的、多面的に見るとについて難しさを感じた。
- ・企画の立て方は参考にはなったが、なかなか実践するのは難しかった。チーム活動はスムーズでした。

○感想

- ・行事活動をするために企画力が必要性を感じました。
- ・祝日や昼間の時間帯は、そもそも参加ができずに、チームの方へ申し訳ない気持ちになった。

○欠席者

- ・受講できておりませんので・・・
- ・スキルアップ講座不参加。
- ・講座は参加できませんでしたが、レジュメ参考になりました。
- ・欠席したので、とても残念でした。

- ・いかに人を巻き込めるのか、気づきを与える、評価する。とても重要とわかりました。

○新たな繋がりによる学び

- ・それぞれのチームの企画のたて方や、課題への取り組み方など、とても勉強になった。
- ・チームのメンバーや他チームの地域を見る視点、アイデア。
- ・人とのつながりがどれ程大切かを学んだ。
- ・人との交流、つながり。
- ・たいへんな事だが、思ってた以上に地域につ

いて考えている方々が多く感動した。

○課題解決のスキル

- ・地域の課題に対してのアプローチの仕方や、人とつながる事の大切さを学んだ。
- ・課題発見から解決策提案までのプロセス。
- ・ニーズ把握の大切さ、課題が地域資源になるかも！？当事者性にとらわれすぎない。

○ワークによる学び

- ・大学の授業で行うグループワークとは違って、様々な所属や年代が集まる地域での活動は、まとめたりしていくのが大変だと感じた。
- ・実際の現場は多様な人もいるということ、大学での学びをそのままではなく分かりやすく伝えることが必要だと学ぶことができた。

○地域づくりに対する学び

- ・時代によって、地域の状況が大きく変わっている。地域をどうすれば、継続的につながっていくには常に工夫する事が必要。
- ・地域づくりは、実行が大事と思う。

○地域に対する気づき

- ・今回、上大謝名のことを少しでも多く知ることができ、参加してみて良かったです。
- ・宜野湾市在住ですが、上大謝名のことは全然知りませんでした。

○コーディネーターとしての学び

- ・地域課題に取り組むにあたり、外部者の心がけを気付かせてくれ、地域の方々と共に問題を認識し、ワークする手法を体験しながら学ぶことで、身の丈にあった解決方法を導びくことを経験できた。

- ・コーディネート方法・手順など、また大切さ必要スキルをあらためて認識しました。

○チームワークでの学び

- ・チームで一つのことをまとめる面白さを経験することができました。
- ・地域の課題がなかなか決まらなかったり、当事者性に引っぱられ、進行がストップしてしまったりもありましたが、最後まで皆さんで協力して、楽しくできました。
- ・チームメンバーが少なく、合同チームになりましたが、テーマ「地域の居場所づくり」が一緒に、課題は違っていました。まとめまで、持っていけることが、話し合いを進めている中で、私自身、学びになったと思う。
- ・様々な学びがありました。年代や仕事の差を超えて、様々なアイデアが出て、みんなで話し合っただけで意見をまとめていく作業は楽しかったです、いい経験になりました。

○その他の学び

- ・毎回、「ふりかえり」をくどいぐらいにやることの重要性を学んだ。
- ・ファシリテーション、問題提起の仕方、発表力、言葉の重要性。
- ・今回は、地域に住んでいる方の参加も多く、よりリアルな地域課題や上大謝名の素晴らしさを直接聞くことができたので、最終発表に向けた企画提案をする際に、とても充実した議論ができたと思います。また、普段関わりのない人たちと出会い、それぞれの立場からの意見がきけることも、この塾の魅力だと思います。この繋がりを今後も良い形で残していきたいです。

設問7) 上大謝名というフィールドから得たこと

○地域の特性

- ・外部の団体ともうまく連携している。外国人さんも意外にいる！
- ・意外と地域団体の代表者は、横のつながりがうまくいけてないと感じた。
- ・それぞれ活動している方々の想い。
- ・地域の積極的な方々による、自治会運営と活動、また、開かれた自治会の重要性を学びました。
- ・県道1本はさんただけで、参加できない方がいる、参加しにくくなる方がいる、モチベーションが下がってしまうのは驚きました。
- ・子育て世代なので、子どもに関することはやはり気になります。環境的にすごく良いので、子ども達が集まればいいのかなーと思います。
- ・黄金宮。地域の力強さ。地域の人の熱い思い。外国人住宅による問題（地主との力関係）
- ・地域力が高い地域で、前へ前へという気持ちが強く、行動力を学ばせてもらいました。
- ・地域の人が各々「想い」を持っているし、力はあるのに、活かさきれていないのがあって、地域資源をどういかしていけばいいのか、どうつなげるのか？について考えるきっかけとなった。
- ・各組織が活発で、外部の組織とも連携しながら学習支援などに取り組むとても素敵な地域だと改めて分かったことと、色んなところから集まった新しい地域だからこそその良い点、課題点を発見できました。

○地域の共通点

- ・活気がある。活動者を増やすには？（私の地域

も一緒)

- ・地域には個性がある。

○上大謝名の良い点

- ・この地域は住民が結愛で結束しているので、この期はチャンスです。
- ・地域全体が非常に前向きで、明るく、素晴らしい人が大勢いらっしゃる。
- ・年配の方々の元気な様子がわかり、元気をいただきました。これから自分も年をとって行く中で、元気に暮らしている年配の方々を見ると、たのもしく、そして地域の役割の重要性を感じた。
- ・目立たない地域だと思っていたが、とても地域のつながりが強くて素敵な地域だと思った。昭和の香りがするような懐かしい場所で、とても居心地が良い地域。

○自分の住む地域への気づき

- ・近くだが、知らない事が多かった。住んでいる所も、もっとよく知ろうとしなければならない。

○体験したことによる学び

- ・実際に地域を歩いたり、地域の方にインタビューすることから考える部分が多かったので、フィールドワークの大切さを学びました。

○地域づくりによる学び

- ・外部資源も使って、横の連携をとる。
- ・横の繋がりを持つことの大切さ。

設問8) 今後、宜野湾市の地域づくりにどのように関わっていけるとと思いますか。また、コーディネーターとしてどのような活動をしたいですか。

○具体的な活動を考えている方

- ・住民なので、得られた提案を検討しながら実行していきたい。
- ・各自治会に配置したらどうか。
- ・自治会と公民館を別々に考えて活用するというところで、何かできることはないか、考えてみたい。
- ・地域人材や地域が求めている事等の情報収集を行い、地域の方々と地域づくりに関わっていききたい。
- ・ファシリテーション技術を活かした会議。言葉の伝達の仕方、問題提起の仕方、発表力
- ・まずは、地域の中で自分のネットワークを広げる。

○積極的に関わりたいと考えている方

- ・まだまだ、わからない事がある中、自分にできることをしていきたい。子供達の居場所作りにかかわりたい。
- ・1期、2期生との交流会にも参加していきたい。今、地域にある課題をたくさんの方と接することにより、コーディネーターとして、地域の方を結びつけられる橋になりたい。
- ・これをきっかけに、繋がっていただけたいと思います。参加できるときに、交流会にも参加できたら。終了しましたが、コーディネーターとしていいのか?!という部分も大きいので、情報を得ながらアイデアを得て活かしていきたい。
- ・市のコーディネーターなどの委嘱制度があれば、積極的に関わりたい。(災害、保険、健康づくりなど) つながり、気づき、まとめ、行動する。
- ・卒業生の皆さんと今後も関わって情報交換していきたいです。自分が住んでいる地域にも

関わっていけるといいと思うのですが、まだ学ぶことも沢山あると思うので、今日できた繋がりを大切にしていきたいと思います。

○仕事に活かしながら活動したい方

- ・職場である嘉手納社協で、地域づくりの楽しさを、皆さんに伝えるコーディネートしていければと思います。
- ・仕事上、地域コーディネーターの業務に携わっているので、グループで新たな意見、発想が新鮮だった。人とのつながりが、とても重要だと改めて知った。
- ・自治会にときどき顔を出します。社協でコミュニティソーシャルワーカーを担当しており、地域支援として住民活動の手伝いをしています。マンネリ化が課題となっているので、一度、地域資源やニーズを整理したいと思います。
- ・認知症サポーター養成講座や訪問看護の仕事から、出来ることを探したい。
- ・社協の職員として、この塾を通して学んだこと、コーディネートする力を活かして地域づくりに携わっていききたいです。

○地元への還元

- ・当面は自身の地域を良くするために実践していきたい。
- ・コーディネーターとして、宜野湾市中学校が2～3年後にコミュニティスクールが導入される予定なので、今回学んだ事を思いだしながら、地域、学校、行政各団体等と活動をしていきたいと思います。
- ・自分の住んでいる地域にある公園を中心に地域の居場所づくり、デイサービス、学童保育をまきこんでやっていきたい。
- ・隣り近所の事を十分に把握。

・まず、中央公民館と自治公民館とのつながりで地域、宜野湾市を活性化できたらと思います。

・まずは、地域のことを知ることから始めたいです。職場の地域のことも知らないことが多いので。

設問9) ぎのわん地域づくり塾を受講しての感想やご意見等をご自由にお書きください。

- ・一団団で活動してきたので、多くの地域活動に目配りできたらと思います。
- ・広く意見を聞く、みんなが話せる雰囲気を作るコーディネーターとしての学びは大きいです。
- ・近視眼的でなく、大きく俯瞰的な眼でみていきたい。
- ・今回、普段は社協職員側の立場であるため、住民側？地域づくりをする側の立場を経験したく受講しました。地域づくりの楽しさを実感しました。
- ・チームではお互いを尊重しながら、たくさん意見をかわし、いいまとめにすることができたと思います。
- ・各地から参加しているので、色々な意見が出てよい企画だ。続けて欲しい。
- ・チームに恵まれ最後まで楽しく参加できた。
- ・長い時間、期間おつかれ様でした。とても勉強になりました。
- ・地域課題の解決策は難しいです。でも、地域づくり塾を通して、ヒントをもらい、受講生の皆さまと出会え、人とのつながり、協働を感じました。発表時間を7分から10分へお願いしたい。
- ・学んだ事、繋がった人(縁)を大切に、地域づくりに関わりたいと思った。
- ・仕事の関係もあり、講座の半分ほどしか参加ができませんでしたが、チームメンバーからの声かけ等あり、終了できた。

- ・ニュースレターがあることで、参加できなかった会の様子を知る事ができ、「参加できなかった～」という不安が少し軽減されました。作成お疲れさまでした。
- ・皆さんが一生懸命に地域づくりに頑張っていることが、心強く感じました。
- ・一年(一回)の期間に、一つの自治会に絞り、複数の視点で課題を設定し、地域住民と外部者が、1つのグループ・チームを組み、感謝。可能な限り、継続的に参加させて頂きたい。
- ・とても良い取り組みだと思いました。第1期から関わってれば、と反省しています。
- ・緊張してなかなか話し機会は少なかったですが、今回、参加してみて良かったです!!
- ・とてもよかったです。
- ・学校を卒業してしまうと、学びの場は減ってしまいます。研修も様々なものがありますが、ぎのわん地域づくり塾のような回数と期間の講座はなかなかないと思います。とても貴重な取り組みだと思うので、今後も続いてほしいなと思っています！ありがとうございます。
- ・物の見方を変えることができるようになったと感じる。
- ・良い仲間とも出会え、ありがとうございます。
- ・全日参加することが出来ず残念でしたが、チームの皆さんと協力して発表までいけて良かったです。

第5章

総括

～第3期の評価と今後に向けて～

第5章 総括 ～第3期の評価と今後に向けて～

第3期を開催して感じた、良かった点や課題、次期に向けての改善点等を、運営した事務局同士で共有することを目的に「ぎのわん地域づくり塾 2018 ふりかえりミーティング」を以下の日程で開催した。本章は、ふりかえりミーティングの内容からの良かった点と課題の評価をまとめ、また、第4章に記載した塾生アンケートの内容も合わせて、次期に向けた塾プログラムの改善ポイントを提言することを目的に作成した。

(1) ふりかえりミーティング開催概要とまとめ

- 日 時 平成30年11月1日(木) 10:00-12:00
- 会 場 上大謝名公民館 集会室(1階)
- 参加者 大城ちえ子(上大謝名自治会)、城間仁・赤嶺舞(宜野湾市社会福祉協議会)、
(敬称略) 喜舎場健次・我如古誉幸(宜野湾市役所)、
宮道喜一・賀数邦彦(まちなか研究所わくわく)



○内容のまとめ

◆第3期塾生の特徴

多様な属性、年代の参加、また多くの「モデル地域の方」の参加を得た	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1期生は若い世代が多く、2期生は年配の方が多く、今年度の3期生は地域の方、市外、専門職等の方と多様で、年代も幅広かった(10代1名、20代5名、30代6名、40代4名、50代4名、60代5名、70代6名) ・ 51名の申込みがあり、32名が修了した(修了要件:全8回中4回以上の出席)。6チームから5チームになった。 ・ 第1、2期生から5名が参加した。 ・ 今年度の塾生は「モデル地域の方」の割合が多く、より地域に近くて難しい面もあったが、色んな方が上大謝名と繋がって良かった。
今年度の塾生に対して留意すべきだった点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢の方には講座内容が伝わっていないこともあったので、伝え方に工夫が必要である。 ・ 「地域」や「コーディネーター」という言葉にも、塾生によって認識に違いがあった。

◆広報について

今年度の広報手段	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市報ぎのわん(発行元:宜野湾市役所) ・ 宜野湾市役所、宜野湾市社会福祉協議会ホームページ ・ 株式会社 FM ぎのわん(毎日ラジオで案内) ・ facebook(宜野湾市、FM ぎのわん) ・ コーディネーターの研修会や各会合での周知(沖縄県全域) ・ ぎのわんボラだより(発行元:宜野湾市社協) ・ 宜野湾市内の各自治会事務所 ・ 上大謝名自治会 大城会長からの声かけ <p>※新聞に取材してもらったが、掲載されなかった。</p>
----------	--

◆各チームの様子

各チーム担当者からみた、チームの様子	<p>今年度は各チームに事務局担当者をおいた。その役割として、講座中のワークなどのチーム活動の補助や、企画作成の進捗状況の把握等を行った。その際に、担当者が感じた各チームの印象を以下に示した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A チーム:子育て世代は子どもが預けられずに参加できなかった。 ・ A、F チーム:リーダーが来れなくなり、チーム内の連絡が取れなかった。AとFチームは、合体してからは、楽しく話し合いができていて良かった。 ・ B チーム:多様な分野のメンバーがいて、色々な角度から見れていて良かった。しかし、多様な方がいる分、広がりすぎて、テーマが最後まで決まらなかった。メンバーの出席が入れ替わりで、チームでまとめるのが難しかった。 ・ C チーム:自主的な集まりも1回行っていた。地域の方は情報提供し、地域外の方は提案をする、という役割分担が行われていた。地域の方は講座内容が難しいという声もあった。 ・ D チーム:休んだ人への声かけを LINE で行っていた。中間発表までまとまるか不安だった。自主的に3回集まった。楽しく活動できていた。社協への相談、質問が多く、事務局を上手に活用していた。「資源って何？」という質問があった。 ・ E チーム:全講座参加者もいて出席率も高く、バランスよく行えていた。自主的にも動いて、まとまりも良かった。
--------------------	---

◆チームの運営方法

企画のテーマ設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 塾の初めに選んだテーマは、地域に切り込んでいく入口のテーマであり、議論していく中で、チームとして納得できる地域の課題にたどり着けば、テーマを変えても良い。それを、しっかりと塾生に伝える必要がある。 ・ 各チーム、課題設定の共通認識を取るのに時間がかかっていた。その為、課題設定の例示があっても良かったかもしれない(過去の塾の過程を伝える等)。去年の最終発表資料があつて良かった、との声があった。
----------	--

チーム内での話し合いで考慮すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「自治会は魅力のない事業をしてるのではないか？」など、課題やマイナスの話になるため、当事者の方は、帰る時に重たい気持ちになり、面白くないと思ったこともあった。それでも、色んな意見を受け入れようと、切り替えて受講していた。地域外の方も言いづらい面があった。それぞれの頑張り認めながら話し合いを進める必要がある。 ・住民の方が多かったため、地域に入っていくリアルを感じた、コーディネーターの葛藤が体験できた、という声もあった。 ・地域の方がチームにいたので、地域の生の声を随時聞けて良かったが、提案、アイデアを出しづらい面もあった。 ・年代のバランスが良かったが、第1、2期と違い難しいこともあった。しかし、話し合いができていた。スキルアップ講座で学んだことが活かされていたのではないか。 ・地域の方は、講義や話し合いの場に慣れていない方もいて、講座に付いていけないとの声があったが、会長がフォローしていた。女性はおっくうに感じている方もいたが、男性は張り切って受講されていて、男女に違いもあった。
チーム内の関係づくりの重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・今期は情報提供の時間も多くて、プログラムが押したため、チーム内の関係づくりに時間を割くことができなかった。 ・チームを分けた後に連絡先をしっかりと交換できたかによって、チームの中の関係づくりや講座の出席率、その後の自主活動の有無に、大きく関係してくると感じた。

◆講座内容・カリキュラム

休憩時間の設定の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・意識的に3期生の全体で交わる機会として、各回で全体のブレイクタイムがあっても良かった。 ・各チームに休憩を任せていたが、長時間の時には休憩を入れるべき。
ステップアップ講座と設定したことによる影響	<ul style="list-style-type: none"> ・今期は企画の中に「資源」「財源」「運営」「外を巻き込む」などの視点が出てきた。櫻井先生のレクチャーが伝わっていたと感じた。 ・那覇市繁多川公民館や株式会社がちゅん、地域包括支援センターふれあい、株式会社 FM ぎのわん等の、具体的なイメージとなる話を聞けたため、企画を考えやすかった。

◆企画提案最終発表

最終発表のプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞いた方に、発表の「良い点」等を付箋紙に記入してもらったが、あまり見られていない。発表が自己満足に終わらないように、発表後には、チームで話し合う時間がある方が良い。 ・「発表」→「反応の共有(付箋紙)」→「チームで話し合う」→「チームからコメントを出す」の流れをプログラムに組み込めるようにすると良い。
------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間を確保するために、最終発表の時間を 30 分早め 12:30 からスタートする事を検討する。
最終発表までのプロセスについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最終発表に至るまでに「批判的目線」と「承認体験」が必要で、中間発表の前に、「本当にこの課題で良いの？」と疑問を投げかけられる機会と、中間発表で「この企画で良い」と、承認を受ける体験が有効ではないか。 ・ 3 期生から、「卒塾生に質問したい」との声があったため、卒塾生に塾生の企画に対して質問をする役目を担ってもらい、塾生と卒塾生の関係を作ることを検討する。 ・ 道具の活用方法や過去の企画発表の紹介など、発表方法についても学びたかった。との声があった。

◆次年度に向けて

次年度のモデル地区と開催時期について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校区内の隣り合う 2～3 自治会をモデル地区として開催することも検討する。 ・ 子育て世代は、休日に長時間は子どもを預けられないので、参加しづらかったとの声があった。その為、各回講座時間を短くして(休日の 6 時間を 2 回に分けて行う等)、講座を 10 回にすることや開催期間(今年度 3 ヶ月半)を延ばすかを検討する。 ・ 開催期間を 1 カ月早め、6 月からの開催を検討する。 ・ モデル地区は前年度中に決め、自治会の総会で、「地域づくり塾の開催」を事業計画に組み込んでもらうようにする。 ・ 普天間地域は、新しい人材を受け入れられる体制がある。
--------------------	--

(2) 塾生アンケートに記載にされていた要望一覧

本報告書の第 4 章に掲載した塾生アンケートの記載内容から、塾の運営に関わる提案や要望を以下にまとめた。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 宜野湾市が持っているデータの照会等について、事前に事務連絡してほしい。 ・ 地域の情報(世帯数や子どもの数等、データを配布して欲しかった) ・ 本事業を通じて、また企画につながる民間企業の参加を促してほしい。 ・ 今回の 3 期メンバー全体でどんな人材がいて、どんな取組をしているのか知りたかった ・ 年配の方への説明や内容に少し工夫が必要では？と思いました。 ・ 発表時間を 7 分から 10 分へお願いしたい。 ・ 各地から参加しているので、色々な意見が出てよい企画だ。続けて欲しい。 ・ 学校を卒業してしまうと、学びの場は減ってしまいます。研修も様々なものがありますが、ぎのわん地域づくり塾のような回数と期間の講座はなかなかないと思います。とても貴重な取り組みだと思うので、今後も続いてほしいなと思っています！

(3) 次年度に向けての塾プログラム改善ポイントの提案

本章 (2) (3) の記載内容を基に、次年度に向けた改善案を以下にまとめた。

○塾生が参加しやすい講座日や時間の検討

- ・ 休日の講座は長時間なために参加しづらいとの声があり、休日の講座 6 時間を 2 回に分けて行う等、講座回数を増やすことや開催を 1 ヶ月早め、期間を延長することを検討する。

○チーム内の関係づくりや連絡手段の工夫

- ・ チーム内の連絡手段を整えることが、チームメンバーの関係づくりや講座の出席率、その後の自主活動の有無に大きく関係してくると思われる。その為、チーム内の関係づくりに時間を割くことや、連絡手段を整えることを検討する。

○チームの企画がより良くなるための工夫

【チームで取り組む課題を柔軟に考えられるようにする工夫】

- ・ 自治会長に提示いただいた「地域の困りごと」から選んだテーマは、「途中で変えてはいけない」と思っていた塾生もいたため、議論していく中でチームとして納得できる地域の課題にたどり着けば、テーマを変えても良いことを、しっかりと塾生に伝えるようにする。
- ・ 各チーム、課題設定の共通認識を取るのに時間がかかっていたため、過去の最終発表資料を配布する等、課題設定の例示方法を検討する。

【企画に対する「批判的目線」と「承認体験」の検討】

- ・ 中間発表までに、チームで設定した課題設定に疑問を問われる体験と、中間発表で企画の方向性に承認を受ける体験が最終発表の質に関わるため、卒塾生に企画に対して質問をする役目を担ってもらえるように検討する。

○最終発表に対する反応の共有方法を検討

- ・ 最終発表では、「発表」→「反応の共有(付箋紙)」→「チームで話し合う」→「チームからコメントを出す」の流れをプログラムに組み込めるようにするために、開始時間を 30 分早め 12:30 からスタートする事を検討する。

○次年度のモデル地区

- ・ 小学校区内の隣り合う 2~3 自治会をモデル地区として開催することを検討する。
- ・ 自治会の総会で、「地域づくり塾の開催」を事業計画に組み込んでもらうように、前年度中にモデル地区を決定する。

平成 30 年度 地域コーディネーター養成講座

ぎのわん地域づくり塾 2018 報告書

平成 31 年 (2019 年) 3 月

発 行 宜野湾市 企画部 市民協働推進課
社会福祉法人 宜野湾市社会福祉協議会

作成・編集 特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく
〒902-0065 沖縄県那覇市壺屋 1 丁目 7-5 民衆ビル 4 階
TEL : 098-861-1469